



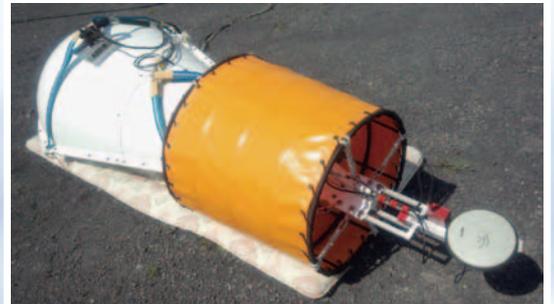
ふじあさみ

富士山山体物理探査 ヘリコプターで実施中

富士山の山体の物理探査を9月26日から10月31日まで行っています。調査は、地上から電気を流し、ヘリコプターから吊り下げられた受信装置で、電磁波を測定することにより、地下の地質構造が推定されます。地下構造から、どこに火口が形成されやすいのか推測し噴火対策の検討資料とします。



記録装置



受信装置

富士山世界遺産登録後の取組

平成25年6月22日、カンボジアのプノンペンで開催された第37回世界遺産委員会において、「富士山―信仰の対象と芸術の源泉」は世界遺産（文化遺産）として登録されることが決定しました。これをきっかけとして、静岡県では、世界遺産富士山の価値を後世に継承するために、様々な取組を行っています。

ふじさん

223未来へつなぎ隊

223未来へつなぎ隊は、世界遺産富士山の価値を後世に継承するために結成したキャラバン隊です。6月23日～8月1日にかけて、静岡県内の主要駅や商業施設等16ヶ所で、富士山世界遺産登録のPRのほか、富士山を後世へ引き継ぐメッセージカードの募集を行いました。この223未来へつなぎ隊には、静岡県で養成した富士山世界遺産ガイドの方々にも、御協力いただきました。

当初は、3776人のメッセージ募集を目標にしましたが、それを上回る4700人の方々からメッセージをいただきました。このメッセージは、8月4日にグランシップで開催された「富士山世界遺産登録感謝の集い」で、お披露目させていただきました。



富士山世界遺産登録感謝の集い

8月4日、グランシップにおいて「富士山世界遺産登録感謝の集い」を開催しました。この集いは、富士山の世界遺産登録に向けて御尽力いただいた各界の皆様へ感謝の気持ちを伝え、世界遺産登録を祝うとともに、今後富士山の価値を後世に継承していく機運の醸成を目的に企画しました。

「感謝状贈呈式」では、構成資産での保全活動に取り組んできた団体や、学習機会の提供に取り組んできた団体など28団体に静岡県知事が感謝状を贈呈しました。

また、近藤誠一前文化庁長官をお招きし、「富士山世界遺産登録の意義」と題し、記念講演をいただきました。



世界遺産「富士山」情報発信機器の設置

「信仰の対象」「芸術の源泉」としての富士山の文化的価値と構成資産等の情報を来訪者に発信するため、静岡県関連施設や市町の富士山関連施設7ヶ所に情報発信機器を設置しました。60インチの大型タッチパネルディスプレイで、ぜひお楽しみ下さい。

設置場所		所在地
富士山静岡空港	富士山回廊	牧之原市
富士山こどもの国	こどもセンター	富士市
道の駅あさぎり高原	共用スペース	富士宮市
白糸ノ滝	観光案内所	富士宮市
裾野市立富士山資料館	展示室	裾野市
富士山樹空の森	2階共用スペース	御殿場市
富士浅間神社	参拝者休憩所	小山町



世界遺産 富士山

富士山－信仰の対象と芸術の源泉

世界文化遺産となった富士山の構成資産を数回にわたり順次紹介しています。

静岡県文化・観光部富士山世界遺産課

今回は、静岡県側の構成資産等について紹介します。

須山口登山道（現在の御殿場口登山道）（御殿場市） 村山浅間神社（富士宮市）



須山浅間神社を起点とし、山頂南東部に至る登山道です。その起源は明確ではありませんが、記録では1486年にその存在が確認できます。宝永噴火（1707年）により、壊滅的な被害を受け、登山道の全体が復興したのは、1780年のことでした。資産の範囲は、現在の御殿場口登山道の標高2,050m以上と須山御胎内周辺（標高1,435～1,690m）です。



12世紀頃に富士山の噴火が沈静化すると末代上人など山中で修行する人々が現れました。これが発展し、14世紀初頭には富士山における修験道が成立します。この中心となったのが村山浅間神社（興法寺と呼ばれていました。）です。19世紀後半までこの修験者たちが大宮・村山口登山道を管理しました。

富士浅間神社（須走浅間神社）（小山町）



須走口登山道の起点となる神社で、富士講信者が多く立ち寄り、33回を一つの区切りとする登拝回数等の記念碑が約70基残されています。社伝によれば807年に造営したと伝えられます。宝永噴火（1707年）では、大きな被害を受けましたが、1718年に再建され、修理を重ねながら現在に至っています。

三保松原（静岡市）



三保松原は『万葉集』以降多くの和歌の題材となり、謡曲『羽衣』の舞台にもなりました。また、15～16世紀以降は三保松原を手前に配した構図が富士山画の典型となりました。それらの絵画を始め多くの芸術作品を通じて三保松原は富士山を望む景勝地として広く知られています。

問い合わせ先

〒420-8601 静岡県静岡市葵区9-6 静岡県文化・観光部富士山世界遺産課
電話：054-221-3746 FAX：054-221-2827 E-mail：sekai@pref.shizuoka.lg.jp
ホームページ URL：http://www.pref.shizuoka.jp/bunka/bk-120/index.html

その他の取り組み

キャンプ砂防2013in富士山

砂防を専攻する大学生に、国土交通省の砂防関係機関で就労体験を通じて砂防に対する理解を深め、土砂災害防止に関する意識の向上を目的に毎年実施されています。

富士砂防事務所でも、「キャンプ砂防2013in富士山」と題して、金沢大学、岐阜大学、京都府立大学、日本大学の学生4名が参加し、8月26日から30日までの間実施しました。限られた時間の中で、富士山の砂防事業について



富士山宝永火口にて



開校式（前列左右4名が参加者）

テーマを決めて学習することで、参加者自ら学ぼうとする姿勢を感じとることができました。

また、活火山富士山における火山地形と砂防事業の関わり、大沢崩れ対策工事や由比地すべり対策事業、富士山の砂防事業の現場を実際に見ることで、砂防の意義、役割、防災対策の重要性を実感し、砂防事業に対する認識をさらに深めることができたと思われました。

かりがね祭り(10月5日)に出展

富士川は急流であり、川沿いにあたる富士市は度重なる洪水による災害が多発していたが、1615年から古郡重高・重政・重年の父子3代が、1674年の完成まで50年以上の歳月を費やし、水田を富士川の洪水被害から守るため、「雁堤」と呼ばれる全長2.7kmに及ぶ堤防を完成させ、古郡氏三代の偉業を後世に残すため、昭和62年より「かりがね祭り」が開催されてきました。富士砂防事務所では、河川愛護意識の高揚を図るため砂防事業アピールを行いました。



富士山火山防災講座

9月1日静岡県総合防災訓練の一環で、富士宮市外神スポーツセンター会議室において、富士山火山噴火避難訓練に参加された住民を対象に火山防災講座を実施しました。噴火に備え何をすればいいのか関心のあがる講義でした。



●ご意見・ご感想・ご質問など、お気軽にお寄せください。

国土交通省中部地方整備局 富士砂防事務所

〒418-0004 静岡県富士宮市三園平1100

TEL 0544-27-5387

担当/建設専門官 落合 または 調査課長 大森まで
インターネット <http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>
E-mail fujisabo@cbr.mlit.go.jp

■富士宮砂防出張所

〒418-0103 静岡県富士宮市上井出1321-9
TEL 0544-54-0236

■由比出張所

〒421-3211 静岡県静岡市清水区蒲原新田2丁目16-8
TEL 054-389-1202

「ふじあざみ」に掲載している内容・データ等は、現時点までに得ている調査結果を基本にしています。今後の調査等の進展により、内容の一部または全部に変更が生じる場合もあります。